

教育委員会会議録

平成25年3月26日(火)

午後1時00分 開会

午後2時16分 閉会

1 議事日程

別紙のとおり

2 出席した委員

平石賢二委員長、豊島半七委員、笠松和永委員、岩月慎自委員、佐藤元英委員
野村道朗教育長

3 説明のため出席した職員

長崎栄一教育次長、岡田信管理部長、岩間博学習教育部長、加古三津代生涯学習監
杉浦慶一郎総合教育センター所長、杉浦章司総務課長、後藤由紀夫財務施設課長
溝口正己教職員課長、伊藤良一福利課長、森繁雄生涯学習課長
笹尾幸夫高等学校教育課長、稲垣寿義務教育課長、上田裕特別支援教育課長
長谷川勢子健康学習課長、大野芳樹体育スポーツ課長
安藤綾子教育企画室長、八木亨文化財保護室長
山本雅夫総務課主幹、與語勝廣教職員課主幹、中野文夫生涯学習課主幹
木下眞吾義務教育課主幹、山崎穂高体育スポーツ課主幹
稲葉均総務課課長補佐

4 委員長報告

なし

5 教育長報告

(1) 平成25年2月定例県議会の概要について

杉浦総務課長が、平成25年2月20日から3月26日までの会期で開催された定例県議会における教育委員会所管分の質疑状況等について報告。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(2) 行政文書不開示決定処分取消請求事件等について

溝口教職員課長が、愛知県に対する行政文書不開示決定処分取消請求事件6件及び自己情報不開示決定処分取消請求事件1件に係る判決言渡について報告。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(3) 愛知県生涯学習推進計画について

森生涯学習課長が、愛知県生涯学習推進本部において策定された愛知県生涯学習推進計画について報告。

佐藤委員が、ユネスコスクールの加盟促進について、どのように進めるのか質問。

森生涯学習課長が、現在加盟しているのは27校であり、申請中のものが現在のところ25校である。また、各市町にユネスコスクールへの加盟の促進のためのお願いをしてきた結果、現在150校ほど加盟希望があり、そのような学校が順調に加盟できるような支援をしていきたい旨答弁。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(4) 愛知県義務教育問題研究協議会の報告について

稲垣義務教育課長が、愛知県義務教育問題研究協議会が平成23・24年度の協議題「児童生徒の言語活動の充実を図る指導の在り方」について研究協議を行い、児童生徒の言語活動の充実を図る指導の手引を作成したことについて報告。

佐藤委員が、手引作成の目的に「家庭や地域での取組の参考にしていただきたい」という記載があるが、この趣旨を徹底するためにどのように周知するのか質問。

稲垣義務教育課長が、本課ウェブページでの配布であるため、ウェブページについて学校を通じて周知していただく。あるいは、抜き刷りすることができるため、学校の通信等にも活用して、言語活動の取組について家庭でも理解していただければと考えている旨答弁。

平石委員長が、愛知県の学校の教員に積極的に活用していただくための工夫について、どのように考えているか質問。

稲垣義務教育課長が、本課や総合教育センターが持っている研修等に資料として持って来てもらうようにするなど、ダウンロードしていただけるように働きかけていきたい旨答弁。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(5) 愛知県生徒指導推進協議会の報告について

稲垣義務教育課長が、愛知県生徒指導推進協議会が平成24年度の協議題「スクールカウンセラーを活用した生徒指導のあり方」について研究協議を行い、「スクールカウンセラー活用リーフ～問題行動の未然防止に向けて～」を作成したことについて報告。

岩月委員が、相談すべき対象が少ない学校もあるが、こういう啓発をすることでスクールカウンセラーを活用できると思うので、是非こういう啓発を積極的に行っていただきたい。スクールカウンセラーは常駐ではないので、有効に能力を発揮していただくために、研修に来てもらうとか、この行事に参加してもらうとか、年間の計画をきちんと立てていただきたい。リーフレットについては、文字が多いので、視覚的にもう少し工夫していただくとうい旨意見。

稲垣義務教育課長が、リーフレットについては、改善していきたい旨答弁。

平石委員長が、スクールカウンセラーが現状では十分に活用されていないと思うので、是非これを機会に活用していただきたい。また、スクールカウンセラーの活用状況のチェックを考える必要があると思う。学校サイドがきちんと活用できているか自己評価する方法とスクールカウンセラー自身に県教育委員

会の方針に対してどこまで仕事ができているかをチェックさせる方法があると思うが、評価についてはどのように考えているか質問。

稲垣義務教育課長が、未然防止や校内研修等にどのように活用していくのかということが当面の課題であり、スクールカウンセラーのサイドから言うと、年2回の研修会で、学校における相談活動の事例の交流が主であったが、今後はスーパーバイザーに研修も含めた広い意味での相談活動にどのように取り組んでいくかということについて指導していただくとともに、スクールカウンセラーの中の話題としても、自分が行っている学校に対して、研修等の広い意味での相談活動にどのように取り組んだかということの情報交換も入れていくようなことを考えている旨答弁。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(6) 学力学習状況充実プランについて

稲垣義務教育課長が、平成24年度学力学習状況充実プランの概要について報告。

岩月委員が、小学校の国語、算数のA問題の平均正答率が全国平均を下回っている原因について分析してあるのか質問。

稲垣義務教育課長が、平成19年度以来、傾向としては小学校の国語のA問題、B問題ともにどちらかというとな国平均よりやや低く、それ以外については全国平均あるいはそれを上回っている状況であった。今回小学校の国語のうちB問題の方は全国平均を下回っていたところからは脱し、A問題は未だ少し下回っている。一方算数の基礎であるA問題に課題が見られるようになったということで、一番基礎的な部分の反復練習あるいはドリル的なものが不足しているのではないかと分析している。小学校国語のA問題についても平成19年度以来漢字の読み書きが全国平均を下回っていたが、現在もやや下回っているものの改善されてきた。算数については今後分析をし、対策を示していきたいと考えている旨答弁。

岩月委員が、授業改善について、現場へはどのような働きかけをしていくつもりなのか質問。

稲垣義務教育課長が、思考力、判断力を求められるB問題については、義務教育問題研究協議会で作成した言語活動の手引の中にそういう力を各教科においても伸ばすような取組事例を紹介しているので、参考にして授業改善に生かしていただければと考えている。また、そういうことについては、今後学習指導要領の研修会や市町村の学校教育担当指導主事会の研修の際にも取り扱っていききたいと考えている旨答弁。

岩月委員が、子どもたちがいかに問題を読み取れるかという言語力にかかってくることからすると、国語のこの状況をどのようにしていくかということは本当に大事なことだと思うので、言語活動を充実させる方策を是非それぞれの現場で取組んでいただけるように引き続き進めていただきたい旨要望。

平石委員長が、学力の二極化がすすんでいるとしたら、分布の形が大事であると思うが、分布についてどのように考えているか質問。

稲垣義務教育課長が、子どもたち個々にどのように指導していくかということとは大切なことであると考えている。このテストが抽出調査のため、県としての分布は出るが、それぞれの学校や学級レベルの子どもの状況は分からない。学校や学級が子どもたちの状況を掴んだときに、それに合わせた方策を打っていくのが一番よいと考えているので、来年度行われる悉皆調査からそれを捉えてやっていくことが必要であると考えている旨答弁。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(7) 第68回国民体育大会冬季大会愛知県選手団の成績について

大野体育スポーツ課長が、第68回国民体育大会冬季大会愛知県選手団の成績について報告。

平石委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

6 議題及び議事の概要

第3号議案 愛知県教育委員会事務局組織規則の一部改正について

杉浦総務課長が、管理部総務課及び同部総務課教育企画室の分掌事務の見直しに伴い、所要の改正を行う必要があるため請議。

平石委員長が各委員に諮り、全会一致により原案どおり可決された。

第4号議案 愛知県スポーツ推進計画「いきいきあいち スポーツプラン」について

大野体育スポーツ課長が、現行のスポーツ振興計画「スポーツあいち さわやかプラン」が、平成24年度をもって終了することに伴い、スポーツ基本法第10条に基づき、新たなスポーツ推進計画を策定する必要があるため請議。

豊島委員が、現行の計画との違いについて質問。

大野体育スポーツ課長が、高齢者と障害者のスポーツを厚くしたことである旨答弁。

野村教育長が、障害者のスポーツはこれまで健康福祉部が所管してやっていたが、ロンドンオリンピックでも障害者のスポーツと一般のスポーツが一体化したこともあり、障害者のスポーツを明解にスポーツ推進計画の中に位置づけたということである。また、マラソンフェスティバルなど地域振興や地域活性化といった大きなスポーツイベントは、来年度から地域振興部が所管することになっているが、スポーツについては教育委員会だけではなく、知事部局と一緒に振興を図っていくことが必要であり、来年度はどのようなスポーツ振興の進め方をするのか教育委員会と知事部局が相談しながら検討を進めていくことになっている旨答弁。

岩月委員が、競技力向上について、県が直接的に事業を展開するのか、競技団体や企業に任せているのかその辺りの実態と今回の計画における県としての方向性について質問。

大野体育スポーツ課長が、実態としては、県体育協会に補助金を出しており、県が主催して何か行うということは今のところ考えていないが、これからの課題としていきたい旨答弁。

岩月委員が、県としての競技力向上を考えるとときには、何か条件整備をしないとできないと思うので、補助金だけではなくて、県としての方向をきちんと示していけるとよいと思う旨意見。

大野体育スポーツ課長が、ジュニアの育成については費用がかかるので、県と親と団体が負担するような仕組みづくりを考えていきたい旨答弁。

野村教育長が、市町村レベルではかなり立派な一般的な施設が出来てきている中で、県として市町村では手が出ないようなレベルの高い施設については、考えていかなければならないと思う。財政状況が厳しい中で、今まである施設の見直しを図ると同時に新しい県としての整備すべき施設のあり方を考えていかなければならないと思う旨答弁。

豊島委員が、今指導者の問題が各方面で出ているが、適正な指導者の育成ということについても力を入れていただきたい旨要望。

平石委員長が各委員に諮り、全会一致により原案どおり可決された。

7 通信及び請願

なし

8 自由討議

なし

9 その他

- (1) 会議終了後、平石委員長から、年度末にあたってのあいさつがあった。
- (2) 傍聴人 2名